

# アンソン・バーリングゲイム伝記研究（一）

—— S・ウェルズ・ウィリアムズ自筆書簡に見る  
初代在北京米国全権公使アンソン・バーリングゲイムの  
生活と意見 ——

A Biographical Study of Anson Burlingame,  
the American Minister in the early 1860s' Beijing:  
His Life and Opinions

宮澤 眞一

MIYAZAWA Shinichi

Anson Burlingame was the first American Minister resident in Beijing, in the 1860s. This is the first installment of the biographical study of him in three parts, written for the purpose of giving him a decent reburial in the historical perspective by using both his official letters to Washington and the personal ones of S. Wells Williams to his family and friends. All these autograph letters have not been published, so that in quoting them for the discussion here in this paper I have tried transcribing and giving a full transcription text.

## 1. 再評価をめぐって

アンソン・バーリングゲイム(1820-1870: Anson Burlingame; 中国名・蒲安臣)の名前と功績は、中国および母国米国の双方において、すっかり忘れられた存在にあった。近代中国史関係の書物に、その名前が登場する例は、もっぱら *The Burlingame Mission* で知られる使節団の団長という役割に関連してであった。1868年から二年間のスケジュールに沿って、近代中国が初めて欧米11カ国に使節団を派遣する際に、米国人でありながら、名誉ある団長に抜擢された稀有な人物なのだ。後述するように近代日本政府の派遣した岩倉具視の遣欧使節団の中国版と位置付けられる

ものである。

バーリングゲームおよびその使節派遣については、当時から情報不足や誤解、誤った解釈等が横行したようである。その一つは、早くも A.R. Colquhoun の著わした中国近代史 *China in Transformation* (1898) における次のような史実解説に現れている。「アンソン・バーリングゲーム氏は、米国政府を代表する公使であったが、前もって本国政府に電信を送って辞職したのち、中国政府の特使として西洋諸国に派遣されることを受け入れた。二名の中国人高官が同行したけれど、彼らこそ明らかに使節なのであり、バーリングゲーム氏は随行者にすぎない。」<sup>1</sup>

後述するように、*The Burlingame Treaty* と呼ばれる中美外交の基本方針を打ち出したのは、もっぱら使節団長のバーリングゲームによる最大の功績であるのだから、「随行員」という見方は誤謬である。それにしてもこうした誤解の源は、当初から内外で話題を誘ったように、なぜ外国人の使節が抜擢されたのか、「バーリングゲーム遣欧米使節団」の謎に包まれた成立過程と目的そのものに淵源する<sup>2</sup>。成立過程の解明は、バーリングゲーム研究の重要テーマの一つになった。

Colquhoun から半世紀以上経過した 1960 年代。すぐれた米国の中国近代史研究者たち、Fairbank、Reischauer、Craig の三者による共著 *East Asia The Modern Transformation* (1965) が発表された。「後年しばしばそうであったように、西洋文明と直に接触する機会が増えていけば、自国の文明を改造したい中国人の支援策としては、最良の方法の一つになるはずだ、と多くの人たちが考えた。この直接交渉という目的のために、海外諸国に外交使節団を派遣するようにと強く勧められ、1868 年には退任予定の米国公使バーリングゲームが、中国最初の遣欧米使節として送り出される運びとなった。バーリングゲームは、1861 年以来、『合作政策』(“cooperative policy”) の中心的存在であった。」<sup>3</sup> 使節団長に外国人のバーリングゲームが抜擢される背景、使節団の成立過程や目的に関する前出 Colquhoun の疑問に答えるヒントは、どうやらこの引用文のなかにも窺えそうである。

「中国文明を改造したい中国人」とは、中国政府内部に萌芽してきた進歩派を指している。外務大臣・首相格の恭親王奕訢 (Prince Kung: 1831-1898)<sup>4</sup> が、その代表である。バーリングゲームと恭親王の信頼関係と友情がなければ、この使節団派遣という構想も実行もみななかった点について、本稿で明らかにしていきたいと考えている。この「合作政策」こそ、近年におけるバーリングゲーム再評価の起点にあると考えるからである。本稿において、この点についても詳論する予定である。

更に、三人の共著は、先に触れた *The Burlingame Treaty* について、条約締結に言及したあとに、次のような評価を示している。「ワシントンにおいて、両国間の平等主義に立った条約を締結

させたバーリングゲームは、同時に雄弁家なのである。西洋文明とキリスト教にとって新しい夜明けが、古風な中華王国（The Middle Kingdom<sup>5</sup>）に始まった、とする彼の声明は、未熟であり、かつ誤解を招いた。彼の使節団は、1870年ロシアにおける彼の急死をもって終息した。」<sup>6</sup>

三者の共著に具体的な条約名は出てこない。それだけの価値をバーリングゲーム条約に認めていない、と解釈すべきであろうか。同様に、条約締結国の双方が、このとき初めて平等主義の方針に立ったことを評価しながらも、時期早尚の声明、という判断を下している。平等主義の方針にもとづく外交が、当然の前提として受け入れられている現実を考えると、三者の記述から約半世紀経過した21世紀の今日、同条約それに立役者のバーリングゲームに対する評価は、変わらざるをえないと考えられる。時期早尚に見えた声明の基本構想は、市場開放政策の波に乗って発展する昨今の中国実情を予告する基本方針ないしはアイデアの提示、というように見直す必要がないのだろうか。

雄弁家のバーリングゲームは、預言者と言えないであろうか。預言者とは、あるべき姿や基本的な方針を「雄弁に」提示する存在、それだけに終始してよいのかも知れない<sup>7</sup>。提示されたもの、そのアイデアに向って、リアリティーが後追いつくからである。

このように、バーリングゲームについての再評価に向けた動きが、近年、進行しているものと思われる。このことを示唆する二つの事例が、ごく最近になって、以下のように見られた。一つは米国発信である。諸外国の大使館が集中している北京市内朝陽区の一部に、美国大使館の大規模な施設が、建築進行中である。新美国使館建設にあたって、祝賀記念品の小冊子が、中国版と英語版の両方で、2008年8月に発行されている。米国国務省歴史文献辦公室の編集した『共同走过的日子---美中交往兩百年 (A Journey Shared: The United States & China)』である。完備した新使館の完成する数年後には、大部の詳細な書物が発行されるはずであり、今回発行の小冊子では、膨大な米中外交史資料のなかから、key points に的を絞っただけに、歴史人物の公的再評価としての意義を感じさせる記述といえるであろう。

まず、同小冊子のなかの一章「19世紀的美国伝教士」において、S・ウェルズ・ウィリアムズ (Samuel Wells Williams: 1812-1884) が、米国から中国に渡来した宣教師の「第一人者」であるとして特化する。1833年以来、広東に在住し、「流利的広東話和日語」であり、とりわけ上下二巻の *The Middle Kingdom* (『中国総論』) については、今日に至るまで19世紀の中国生活を精査活写できた優れた観察の書物であるとして、高く評価している<sup>8</sup>。

次に肝心のバーリングゲームについては、19世紀初期の外交往来と題する一章のなかで、肖像画と共に一頁を費やし、詳しく紹介している。なかでも「蒲安臣条約」批准後に実行に移された

条約項目のうち、在米中国公使館の設置、両国民の往来と居住の自由、中国人による移民と米国留学の奨励、中国政府の主権と自治を尊重した領土不可侵、に言及している<sup>9</sup>。中国政府にとっては、国際法に沿った平等主義に立脚する最初の国際条約の誕生・締結を意味しただけに、今日の歴史的視点から見ても、国際社会に中国を対等に招き入れたバーリングゲームの功績は大きく、再評価すべき好機が到来したといえるであろう。

再評価の動きを示唆する事例のもう一つは、中国発信である。日本のセンター試験にあたる中国統一試験のうち、各省で作る二次試験では、歴史の問題にバーリングゲーム使節団の中国近代化に与えた影響について、次のような出題があったという。長崎新聞に掲載されたユニークな研究ノート、「岩倉使節団とバーリングゲーム使節団」で以下のように報告されている<sup>10</sup>。

「中国では今年 6 月に大学統一試験が実施されたが、安徽省の歴史の試験に次のような問題が出された。(1) 中日両国使節団の派遣目的と団員の構成にどのような違いがあったか。この点に言及しながら、両国政府の近代化に対する姿勢を述べなさい。(2) 両国が使節団派遣で得た成果をどう運用したか。その時期の中日両国の近代化の主な差異を述べなさい。

「読者の皆さんは、この問いにどのような答えをお書きになるでしょうか。」

試験終了後に受験生の高校生に向けた模範解答の一つが、書英(曲阜師範大学)によって「周刊考試」紙上で公表されている。

このように出題されている事実を裏返せば、前提として、高校の歴史授業や教科書が、バーリングゲーム使節団を教材に取り上げていることになる。日本近代史における岩倉使節団の意義と同様に、中国近代史における第一回の遣欧米使節団の持つ歴史的意義を再評価する動きは、ここにも感じられる。

## 2. 先行研究について

前述したように最新の動向は、再評価に向かっている、と観測できるものの、近年の先行研究となると米国では皆無に近いようである。バーリングゲームの死後まもなく執筆発行されたバーリングゲーム使節団に関する英文研究書、それに死後 40 年ほどして執筆発行された英文の伝記のほかには、ここ 100 年余りの間、バーリングゲームに関する研究書・伝記・書簡集等の研究資料は、英文で出版されていないようである。

前者の使節団に関する研究書とは、1872 年上海出版の Dr. Baron Johannes von Gumpach に

よる *The Burlingame Mission* を指しているが、全 891 頁のなかに、使節団派遣当時の資料を豊富に揃えている。それでも、どこか執筆動機に或る種の偏見や意図が潜入しているように思われて、ほぼ各頁に批判めいた論述が列記されている<sup>11</sup>。そのため読者の判断は、その都度、振り廻されてしまい、結果的に扱いにくい難解な書物に終始してしまう。著者のように 1800 年代半ばの中国で生活した欧米人は、国柄を問わず、なにかにつけて野望や疑惑に満ちた苦渋の日々を多く味わったことであろう。こうした *exile* の屈折や苦渋が同書に多すぎるといえることか。

この大部の書物が、バーリングゲーム使節団のみならず、当時の英米全権公使、それに有力者 **Robert Hart**<sup>12</sup> や中国政府外交部の高官たちについても、その虚像と実像を解明する上で貴重な資料であることを否定するものではないにせよ、本稿のテーマとするバーリングゲーム再評価にかかわるかぎり、それほど有益な研究対象とは考えにくい。

但し、以下の二点において評価すべき側面があるので、注目しておきたい。一つには、同書の特色の一つとして、条約文や書簡等の公的文書の訳文を丹念に検証してみせている点にある。一例を挙げてみよう。第五章で詳論しているバーリングゲーム首席使節の携えることになった中国皇帝による信任状の訳文がそれにあたる。訪問予定国の国家元首に宛てた中国皇帝の書簡としては、今回は最初のものになるだけに、中華思想を払拭できずにいる中国高官によって作文されて黄色の紙に記されることとなる、例えば、皇帝の立場一つにしても、英文でどのように訳出表現されているか、確かに気になるところではある。

英国公使館通訳であり、使節団の副使として随行した **J.M.L. Brown** は、英文の訳者であるけれど、先に 1866 年、中国人使節 “**Pin-Chun (addressed Pin-tajin)**”<sup>13</sup> を欧州諸国へ無事に案内した短期訪問の実績がある。更に、訳文の校閲をした三人の証人の名前が連記された。

いずれも中国に長く在住して、現地で中国語を独学した学者肌の努力家ぞろいで、いずれも公的な機関に在職していた。中国語に堪能な訳者であることに疑問の入る余地はなさそうに思われるが、以下の引用に見るように、**Gumpack** はそう簡単に鵜呑みにしない。彼らの仲間に加えられなかった個人的な怨みの感情が、文面に潜んでいるのでなければ幸いである、とさえ思う。

三人の訳文校閲者のうち先ず、**S. Wells Williams** は美国公使館の代理公使、次に英国人の **Robert Hart** が中国政府の設置した上海の中国海関所長、最後に **W.A.P. Martin** は北京の外国語帝大教授という肩書で署名している。直訳体を旨とする **Gumpack** 自身の英文訳と、**Brown** 等による公的な訳文とを比較して、「どうして、このような異例とも言える差異が生じたのであろうか」と自問自答しながら論を進めていき、読者の疑惑感情を深めてから、以下のような断定を下すのである<sup>14</sup>。

The Chinese missionary may be able to translate, with native aid, both the Old and New Testament into readable Chinese; yet, without a previous and special study, he will be unable to read a chapter even on the cognate themes of Buddhistic or Taotai liturgy. The Inspector-General of Chinese Maritime Customs may succeed in framing a Chinese code of pilot-regulations, or a set of rules for the revival of a defunct College; but he will fail to decipher so much as the title-page of the official Peking Almanac. And the diplomatic Interpreter, though he be competent to construe the Chinese text of a treaty of peace or commerce, will be found incompetent to explain either the construction or the sense of a native treatise on any scientific subject. To a distinguished “sinologue” of this class it has happened, upon a rare and far-framed work on Astronomy being submitted to him for examination, he has announced it to be “some old law-book, hardly worth purchasing.”<sup>15</sup>

よほど苦い思いや屈折を体験した人物でなければ、このような個人的な批判を公表するものではない<sup>16</sup>。それだけに本書の記述から想像できるタイプの著者でないと、とうてい言及しそうにない些細な事柄、例えば最後の「中国学者」についての書物購入エピソードなどは、S・ウェルズ・ウィリアムズの伝記研究者にとって、一つの小さな情報になりえる可能性を含んでいる。随所にそんな些細な個人情報を散見するので、見落とさずに注意して読破しなければならない一冊に違いないのである。

バーリングゲームの英文伝記書は、Frederick Wells Williams によって執筆され、New York で 1912 年に出版された *Anson Burlingame and the First Chinese Mission to Foreign Powers* が、一冊ある切りである<sup>17</sup>。全体で 370 頁という適切な分量である。エール大学の歴史学者の書き物らしく、安定した記述で展開する本文 272 頁は、バーリングゲームと使節団についての全体像を読みやすく提供できている。それに、五本の付録資料、さらに参考文献と索引が、巻末に付いている。

安定し読みやすい叙述になったこと背景には、伝記対象についての個人的な親交も役立っているに違いない、と思えるのである。著者の Frederick は、S・ウェルズ・ウィリアムズの長男にあたり、主に 1861 年から 1868 年にかけては、米国公使館の書記官・通訳である父親のもとで暮らす少年時代に、父の上司である全権公使バーリングゲームとは、家族ぐるみで親交する機会に多く恵まれていた。首席使節に選ばれる際の有力な推薦条件となったバーリングゲームの人柄、彼の humanism について、こうして少年時代から身近に見聞できていたわけである。それにもう

一つの執筆理由として、上で言及したような Gumpack 等による父親に対する、特に中国語の能力に関する揶揄等には、子息なりに正当な弁護や評価を表明しておきたい気持ちが、内面に働いていたであろう<sup>18</sup>。

バーリングゲーム研究にあたっては、この Frederick による総括的な伝記こそ、現在の私どもの手元に手渡された唯一の典拠であるから、本稿でもたびたび言及・引用することになる。ここでは、同書の特色、それも一点にだけ絞って触れておきたい。本文の叙述のみならず、脚注、それに巻末の参考文献を見ても分かるように、当時の雑誌や新聞の関連記事を精査している点である。バーリングゲームについては、「合作政策」「バーリングゲーム条約」「バーリングゲーム使節団派遣」など主要な業績の三点に限って見ても、それに中国政府のお雇い外国人傭兵部隊（Frederick Townsend Ward 隊長の遺産問題と後任 Henry Andrea Burgevine）、所謂 Lay-Osborn Flotilla の処理問題等を追加してみても、Gumpack を待たずとも当時から、賛否両論に分かれてジャーナリズムを賑わしていた。それだけに、雑誌・新聞に載った関連記事も多く、Frederick による先行調査研究は、今日的視点からみて意義深い。

米国での先行研究こそ、このように少ないものの、他方、近代史研究が盛んになってきている近年の中国で、バーリングゲーム関連の論文が、ポツポツと発表される昨今である。米国国務省発行の記念小冊子に、バーリングゲームとともに登場した S・ウェルズ・ウィリアムズに関する優れた研究と再評価とは、とうてい比較にならない。SWW については、北京外国語大学を中心として進んでおり、顧鈞の著わした『衛三畏与美国早期漢学』<sup>19</sup>は、その一つの優れた成果といえる。

バーリングゲームに関連して、古くは、中外交渉事務大臣として派遣された志剛と孫家谷が、それぞれ報告書を書いている。前者による『出使泰西記』（全 123 頁）と、後者の『使西述略』（1000 字弱）は、いずれも簡単な報告にすぎない<sup>20</sup>。

近年になってからは、博士論文が一本書かれているのは、SWW と同じである<sup>21</sup>。学術雑誌の論文は四点を確認し入手できた。そのうち、李宗敏（聊城大学）の「浦安臣及晚清朝中国外交史」（2008）と、李曉蓉（揚州大学）の「略論浦安臣使団」（2007）の二点は、執筆当時院生の研究論文である<sup>22</sup>。更に、執筆当時助教授の劉華（広州）による「評 1868 年中美〈浦安臣条約〉」（2003）がある<sup>23</sup>。また、中国の若手研究者の陸旭は、統一試験出題に先立つ 2008 年に、論文「関興晩浦安臣使団兩個問題：以与岩倉使節团的比較为中心」を書き上げており、出題にあたってのヒントになったかも知れず、後続する別稿のテーマに関連するので後述する予定である<sup>24</sup>。

劉華の力作は、中国人の移民権に焦点を合わせている。懸案となっていたアヘンの輸入が、南京条約で合法化されたあと、もう一つの懸案事項だった中国人の人身売買(the coolie trade)や移

民が、それまでの悪徳欧米商人の間に横行していた誘拐や詐欺的確保手段によらずに、本人の意思による海外渡航の自由と権利を第五条で認め、六条において移民の待遇を米国市民と同等にする、こととした。この点における蒲安臣条約の持つ国際貢献に注目している。この論文の特に優れた点は、バーリンゲーム条約の下敷きになった彼による「合作政策」の八項目を見落としていないことにある。

李曉蓉による「略論蒲安臣使団」では、使節団の成立過程から説き起こし、カリフォルニア・ニューヨーク・ワシントン等、米国からはじまる使節活動の日程と内容を述べたあとに、英国など欧州での動きについて概観する。最後に同使節団についての再評価を試みているが、なかでも宣教師たちの設立したミッション・スクールの役割、それに中国人学生の米国留学や中国官員の米国派遣による文化交流に着目しながら、条約のもつ中国近代史、とりわけ文化教育面での意義を指摘した。この点でユニークな視線を提示できている。

李宗敏の「蒲安臣及晩清朝中国外交史」では、後述する、『万国公法』の中国語訳本とバーリンゲームを最初に関連づけて論じている。更に、対中国外交ではどの欧米諸国にとっても、頭痛と災いの種になってきた伝統的な儀礼、とりわけ叩頭 (kowitz) について、首席使節に米国人が抜擢された事情の背後に、いくら中国皇帝の使者であろうとも、バーリンゲームであれば諸外国の君主に対し旧来の中国流儀礼をしなくて済みそうだ、とする計算が働いていた点に言及しながら、中国礼儀の近代化に焦点を絞っている点が、独創的なアプローチといえる。

### 3. 基礎資料としての S・ウェルズ・ウィリアムズの未刊自筆書簡

前述した Frederick W. Williams の著わしたバーリンゲーム伝記研究は、現在のところ、バーリンゲームの人生と活躍を包括的に扱ったほぼ唯一の信頼できる基本資料である。このことは、先行研究を一覧してみて、そう判断できる結論に違いない。

FWW には、この伝記のほかに、父親 SWW の伝記 (1889) を書き上げている<sup>25</sup>。更に、父親の残した自筆文書を転写・編集して、二冊の遠征日記にも纏め上げている<sup>26</sup>。父親の書き残した遠征日記の自筆原稿、それに父親の伝記で使用した豊富な自筆書簡。これらは、いずれも長男 FWW が自ら、収集・整理にあたったけれど、これら三冊の著述後にそのまま、エール大学の Sterling Library に寄贈した。膨大な The Samuel Wells Williams Family Papers のコレクション。今日の私どもが、同図書館の自筆部門でこれらを利用できるのは、FWW のお陰である。彼



は母校エール大学で歴史学、それも西洋史を専門に教授した。彼に先立って父親のSWWもまた、40年あまりの中国滞在中に終止符を打ったのち帰国し、エール大学中国学の初代教授職をつとめている。中国学の研究分野で優れた学者を輩出することになるエール大学のスタートラインに、老いたSWWの姿がある。

前出の顧鈞が、米国初期中国学の開拓者という高い評価をSWWに与えているのは、単に中国滞在中に実現させた中国語研究、辞書編纂、それに月刊誌 *The Chinese Repository* の編集・執筆・発行や、名著『中国総論』だけを根拠にしているわけではない。

FWWによるバーリントンゲーム伝では、当然のことながら、SWWの自筆書簡が豊富に使われることになった。SWW自筆書簡以外の資料として、前述したように新聞雑誌の記事を精査して使用するほか、米国公文書館の保有する外交文書、それも自筆公的書簡を多く使った。こちらの公的文書に関しては、今日、私どもは公文書館作成の膨大なマイクロフィルムで読むことが可能である<sup>27</sup>。

本稿では、研究の基礎資料として、SWWの自筆書簡を中心に利用し、更に外交文書の自筆文書を必要に合わせて随時、活用したいと思う。いずれも未刊の第一次資料であるので、テキストの判読と転写（transcription）の作業が、事前準備として欠かせない。それに、判読した結果を日本語の訳文に直すよりも、転写テキストのまま英文で提示する方が、資料的により有益であろうと考えた。

転写テキストの掲載に関連して、ここで指摘しておきたい一点がある。SWWの手稿は、丁寧な筆致で綴られているので、判読にあたって全く困難を感じたことがないのに対して、バーリングゲームの自筆はどれも、大きな文字で走り書きしたかのように乱雑で、判読に困難を伴う箇所がときどき発生する。判読困難なケースでは、一つには筆者なりの推測する単語を括弧 [ ] 内に提示してみたり、絶望的な場合には [an illegible word] のように表記することを予めお断りしておきたい。

#### 4. 初代駐北京美国特命全権公使バーリングゲームの任命

バーリングゲームは駐北京米国全権公使の第一号に任命された。これまでの美国全権公使は、南部のマカオ・広東、沿岸の上海等の地方都市を転々としていて、首都に公使館を常設するまでに至っていなかった。中国とのバーリングゲームの関わりは、最初の任命からして変則的であったし、

使節訪問先のペテルブルグにおける最後の客死まで、終始変則的な展開となってしまったようである。

全権公使の立場で米国國務省のシワード長官に書き送った以下引用の公的書簡には、No.1 と記されており、発信地はマルセイユである。以下に全文を転写して引用しておきたい。

No. 1. (Recd. 27<sup>th</sup> Sept.)

Marseilles, Sept. 11<sup>th</sup>, 1861

Sir

I have the honor to inform you that I received my Commission and instructions from the hands of Mr Porter, our Consul to Tripoli, on the twentieth of August last. I proceeded at once to London, for my outfit, and secured my passage for Hong Kong, China, by the first Steamer, which left Southampton Sept. fourth. I meet it at Marseilles and shall leave in the morning. I shall reach Hong Kong in about four weeks later.

I did not draw on the Barings for my salary, on my Austrian letter of credit, after the last of June, I shall draw for the next quarters salary on the China letter, and regret to write that it will nearly all be required to pay the expenses of myself and family to my post.

I occupied my time whilst waiting for my instructions in procuring such informations as I could touching the singular people I am about to visit, and in doing, what was possible to strengthen our cause in Europe. Permit me to write that I have found a most valuable aid, in Chinese affairs, in H.M. Buckurth Esq., a gentleman, now residing in Paris, who was for a long time the head of the great American House of Russell & Co. in China. I have also received many valuable hints from Russell Sturgis Esq. of the House of Baring Brothers & Co. who resided twelve years in China. These gentlemen are particularly pleased with the removal by the Gov. of certain American Consuls in China. It is nor for me to suggest the necessity for great care in the selection of these. In this connexion I hope I shall be pardoned if I mention the name of Wm. Breck Esq. now Consul at Swartow. Winter before last as a member of the Com. of Foreign Affairs in the House, I had the honor, at the suggestion of the Hon. Gilmour Murston of N.Y. now Col. Murston, who was wounded at Beillo Run, to secure the establishment of that Consulship for Mr. Breck, because of its necessity to my Commerce and his special fitness for the place. He is a man of most excellent character and fine capacity. I proceed to my new post with diffidence but still with pleasure, for there is a fine field

and I am yet a young man.

Your Obedient Servant

A. Burlingame

Mr. Wm. M. Seward

Secretary of State

この最初の公文から、私どもは、多くのことを学びとれるが、最初に、そこに言及されているオーストリアに関連して、生い立ちに始まるこの間の経緯をここで概観しておこう。

熱心な米国メソジスト教会員の父親 Joel は、本来の職業であるはずの農地開拓に精を出すよりも、近隣の農家を訪問して、持ち前の雄弁と紳士的な容姿によって、キリスト教を説き廻る方が、好みに合っていたらしい。生活者として頼りない、こうした非現実的な夢想家タイプの父親の、貧しい農家に育ちながら、バーリングゲームもまた、父親譲りの力強い雄弁を得意として成長し、同時に朗らかな楽天的性格と情熱的な理想主義とを身に着けていったようである。バーリングゲームの人柄について指摘された以下のような幾つかの特色的ラベルは、こうした性格形成と家庭環境に起因すると思われる。楽道家、性善説、理想主義、ヒューマニズム、平等主義、熱血漢、雄弁家等々。

苦学して通ったミシガン大学のデトロイト分校でも、すでに若き雄弁家として頭角を現して、ハーバード大学法学院の 1843 年入学にまで発展させる。1846 年にハーバード大学を卒業してのち、ボストンの法律事務所に籍を置き、法廷のみならず、共和党の青年部においても、「とにかく集まった多くの人の面前で、抜群の効果を発揮できるバーリングゲーム氏は、magnetism を発揮していた」、と後年に回顧されるほどに、繊細微妙でありながら力強く、聞き手を圧倒できる人間的魅力が、備わってきていたと思われる<sup>28</sup>。

自然な成り行きによって、マサチューセッツ州選出の下院議員に選出され、三期つとめているが、上掲引用書簡に出ているように外務委員会に所属した。引用書簡にみる House の Foreign Affairs Committee はそのことを指している。下院議員時に起きた大きな事件の報道によって、彼の名前は全国に知れ渡ることになる。奴隷解放演説と暗殺行為、それに果たし合い、という事件の連鎖は、英国推理小説家 Wilky Collins の物語を地で行くようなものであったからだ。

上院議員の Sumner による奴隷解放のための議会演説が行われたとき、南部諸州選出議員の間に耐えがたい怒りや屈辱を招いてしまい、米国議会史上、前代未聞の暴力事件を引き起こす。南部出身の下院議員 Preston Brooks が、南部に対する汚名を返上するつもりで上院に侵入し、部

屋の片隅で執筆中だった例の Sumner 上院議員を背後から襲いかかり、いきなり自分の手にしたステッキを振りあげ強打したという<sup>29</sup>。あやうく暗殺される場所であった。

神聖な討論の場で起きたこの暗殺行為は、下院議員のバーリングゲームを演壇に登場させたばかりか、熱血漢の彼としては、Brooks との決闘を申し入れるまでに発展した。それだけでなく、彼の言動の正しさを選挙民に問うために、バーリングゲームはいったん議員を辞した。ブカーナン大統領の政権下の間、二度、下院議員に返り咲くものの、次の 1860 年選挙では、リンカーンを支援して熱心に運動したけれど、落選する。その後、外国駐在の全権公使に任命される運びとなる背景には、以上に概観してきた議員時代の功労が、好意的に評価されたためである。

先の引用書簡に、先ず Austria や Paris が登場する事情は、ウィーンへ全権公使として赴任するつもりで、途中で滞在していたパリに、オーストリア政府からバーリングゲームの信任状を受け取れない、とする就任拒否の連絡が入ったということなのである。熱心な奴隷解放主義者であるバーリングゲームの人類平等主義が危険すぎるという見解は、オーストリアのみならず、米国や中国でも、時に大きな声で唱えられた時代なのである。

パリまで渡来しながら立ち往生してしまったバーリングゲームには、1861 年 6 月 17 日付けの公式通知が届けられ、代替地として北京が提案された。北京行きを承諾したバーリングゲームの書簡には、1861 年 7 月 6 日の日付が入っている。従って、7 月初めから先の引用書簡の 9 月 11 日までの約二ヶ月間をパリやロンドンで過ごしながらか、中国行きの準備に取り掛かったものと想像できる。引用書簡のなかで、中国での任務に「自信がない」と自認しながらも、「この珍しい国民 (the singular people)」と接触できるわけで、素晴らしい仕事の分野であるから自分もまだ若いので楽しみだとする、いつもの楽観的な前向きの姿勢を垣間見せている。40 歳の時点で、北京に在住する初代の米国全権公使に任命されたことで、未知の国で始まる未知数の仕事に、チャレンジする意欲を感じたものと思われる。本稿の冒頭で言及した米国國務省発行の小冊子において、バーリングゲームが大きく登場してくる再評価の背景には、北京に在住する最初の米国特命全権公使という歴史的な分岐点、という意義づけも作用しているはずである。

## 5. 着任当初 1861—2 年の中国状況

予定通り 10 月 24 日に香港に到着したバーリングゲームの最初の公式書簡には、香港発 1861 年 11 月 1 日の日付がついている。赴任後に書いた最初の公式文書であるので、当時の情勢分析を以

下のように詳しく伝える内容になった。

(No. 2: Rec. Dec. 30)

Hong Kong

Nov. 1<sup>st</sup>, 1861

Sir

I have the honor to inform you that I arrived at this place on the 24<sup>th</sup> of Oct. last.

I found the Archives of the Legation, in the keeping of Dr S. Wells Williams, at Macao, within a few hours of this place. I immediately communicated with Dr Williams, who, from his long residence in China and his experience as Interpreter and Secretary was able, at once, to give me such information as would facilitate the business of the Legation.

I addressed notes to the representatives of England, France, Russia &c. informing them of my arrival and that I had entered upon the duties of my office.

It is too late to visit Peking on account of the cold weather---the streams are already closing and besides there are no accommodations there for us and the business of the Legation does not require such visit at present. The Govt. of China, for our purposes, is most easily communicated with from the sea coast, and there are questions, which require my presence in the sea ports and I shall go today to Canton for the purpose of having an interview with the Chinese authorities. As at present advised I shall establish the Legation at Shanghai, which is the centre of our commerce in China. I shall visit Peking as soon as I can or whenever the interests of the Gov. may require it. In this connexion permit me to call your attention to the fact that my predecessors Messrs McLane, Parker, and Reed and Ward, each, had a letter of credit for extraordinary expenses in the Barings, for ten thousand dollars. If the U.S. Legation shall go to Peking either to reside or [stay there] in a short visit, it will require more money than the Legation has as salary if all were used, judging from the expenses of my predecessors as found in the files of the Legation of which there are sufficiently vouched.

The allies evacuated Canton on Monday the 21<sup>st</sup> of Oct. and all remains quiet in the city.

I received a dispatch dated Shanghai Oct. 28<sup>th</sup> from our Consul W.L.Y. Smith, containing the alarming intelligence that the Rev. H.M. Parker and Rev. J.L. Holmes American Missionaries, had been killed about thirty miles from Chefoo, China. Chefoo is one of the ports opened by the British Treaty, about five hundred miles north of Shanghai under the name of Panyahoe in the Province of Shantung.

The Rebels were approaching Chefoo in force when Messrs Parker and Holmes went out for the purpose of trying to persuade them from approaching further towards Chefoo and were killed by order of the Rebel Chief. Their bodies were subsequently recovered and buried in the English burial ground near Chefoo. Mr. Parker was from South Carolina and has left a wife and child who are at the Shanghai.

Mr. Holmes was from the District of Columbia and has left a wife who remains at Chefoo.

There is some apprehension that the Rebels may try to capture Shanghae and signals and alarms have been agreed upon by the Foreign residents under the direction of the English and French military authorities.

The little Sagmaw, Commander Schenck, is the only vessel we have in the Chinese seas, so that if there should be occasion for force, we should not have much.

The report which was sent out that Privateers were fitting out in Shanghai has no foundation in fact, still there is a feverish apprehension and our commerce is suffering. There are fears for the safety of the “Al-mena,” on board of which, are out newly appointed Consuls Carpenter and Mangam. It is now fifty three days since the ship passed Anger.

I have just learned of a brutal murder at Poklo, about fifty miles north west of this place. Dr Legge a distinguished Missionary purchased a house for a Chapel which he dedicated in person and then left. The Catechist whom he left was murdered, after refusing to abjure the Christian religion. Subsequently a reward of fifty dollars was offered by the Chinese for the head of any foreigner.

I have the honor to be / Sir / Your obedient Servant

A. Burlingame

Secretary of State / Washington

FWW によるバーリングゲーム伝記は、着任した当時の中国情勢を次のように概括している。「1861年の中国は内外の二重の苦しみに喘いでいた。一つには国内の反乱軍である<sup>30</sup>。もう一つには、北京に間近に迫る場所で、外国侵略軍によって中国軍が敗北した最近の出来事である。この戦争の結果、中国の長い歴史のなかで、外国諸国の全権特使の北京永住を初めて認めることとなった。そうではあるが、中国人の心中には、可能なかぎり早い機会に外国人特使を開港地まで追い払いたい感情がくすぶっている。」<sup>31</sup>

前掲引用書簡にも同じ状況が伝えられている。それに着任早々に二件の外国人殺害事件が発生するほど、目の当たりにする実情は危険極まりなかった。最初に報告されている殺害事件は、太

平天国の乱に巻き込まれた米国人宣教師二名の場合である。両者ともにバーリングゲームよりも約一年先に、中国に赴任したばかりの青年牧師たちであった。米国監督教会（The Board of Foreign Mission of the Protestant Episcopal Church）が派遣した H.M. Parker 牧師は、新婚の夫人を伴い、1859年7月13日にニューヨークを出港、12月22日に上海に到着した。単独派遣ではなく、同派中国伝道の先駆者ブーン（William Jones Boone）<sup>32</sup>の率いる多数の1859年伝道団の一員であった。また、兄弟が次々に中国伝道に携わることになる伝道師一家でもある。

もう一人の J.L. Holmes は、バプティスト教会系の派遣宣教師（The Board of Foreign Missions of the Southern Baptist Convention）であり、夫人と弟を伴い、1859年後半に上海に到着したあと、1861年になると蘇州から南京にかけての地域に陣を進めた太平天国の乱の野営地を何度となく、訪問し始めていた。Chefoo での伝道を開始したのは、同年9月からである。事件の起きた10月6日に、Parker と一緒に野営地まで馬を進めたものの、消息を絶ってしまい、友人と共に捜索に乗り出した Holmes の弟が、10月15日に遺体を発見した<sup>33</sup>。

殺害の理由や真相はよく分からないが、何度も野営地を訪れている Holmes には、1860年9月1日号の North China Herald に書いた太平天国の乱に関する記事があり、それが反感を買ったのかも知れない。

前掲引用書簡で認めているように、バーリングゲームにとっての SWW は、文字通り転ばぬ先の杖となる。外交交渉や公使館の雑務処理から私生活に至るまで、なにかにつけて頼らざるをえない、そして信頼できる直属の部下であった。上記殺害事件に関する情報や見方についても、SWW から教えられたことであろう。同じく前掲書簡に列挙されている特命全権公使の前任者たちは、SWW がたびたび私信のなかで溜め息交じりにこぼしているように、赴任先の中国の滞在期間が一、二年と短かいうえに、後任者の着任を見届けず、まして十分な引き継ぎをしないまま、離任地してしまっても平気。こうした状況が慣例になってしまえば、新任者の到着するまでの空白を埋める公使館業務は、書記官通訳の SWW に廻される。公使も代理公使もその他の館員もいない、という異常な事態さえ起きることが、以下に引用する SWW のマカオ 1861年10月1日の公式書簡から判明する。

代理公使をなんとか体験し、公使館の雑務を処理してきた SWW の眼に、今度の新任者バーリングゲームは、どのように映ったであろうか。前掲引用書簡の中で、米国公使館の公文書を保管するマカオの SWW というのは、彼の重要な代理役割を伝えるだけでなく、或る一定の場所に常設された公使館の所在地がない、という未熟な状態を物語っている。特命全権公使の居る場所が、公使館なのであり、この間の二年間は、書記官と通訳官、時に代理公使を務めた SWW の自宅に

米国公使館を預かってきた。

バーリングゲイムの香港到着日が、1861 年 10 月 24 日と伝えているけれど、このころ SWW もまた中国に戻ってきたばかりであった。米国に残している妻子を連れ帰るといった私的目的のほか、公的な目的としては、締結されたばかりの南京条約に大統領の署名を求めるといった任務を与えられていた。以下の SWW による国務大臣 Seward 宛て公式書簡には、中国に戻った日を 10 月 1 日としているし、書簡のマカオ日付が 10 月 11 日であるのだから、バーリングゲイムの着任にようやく間に合った格好になる。

Legation of the United States,

Macao, Oct. 1st, 1861

Sir,

I have the honor to inform you of my arrival in China on the 1<sup>st</sup> inst.; and that, finding no minister or other officer here; I have taken charge of the archives as left by Commodore Engle, and other property of this Legation, most of which has remained in this city during the past two years. The only document which I find among the records of unfinished business, is a dispatch from Sieh, the Commissioner of Foreign Commerce, dated July 16<sup>th</sup>, addressed to Flag Officer Stribling. Similar communications have been sent to the other Foreign Treaty powers, explaining the action of the Chinese Government in relation to levying duties on native produce carried from one port to another, and showing that it is not in contravention of treaty stipulations. Its acknowledgement and action can await the arrival of the Minister.

The demise of the Emperor Hienfung, at his summer residence at Te-ho in the northern part of the province of Chihli, about the 25<sup>th</sup> of last August, and the accession of his eldest son, a boy of nine years, under the style of Ki-siang, has been announced in the papers, but no official information of the event has been received by the Legation. The Government at Peking is administered by a regency of several Manchu and Chinese officers; and hitherto no disturbances have been reported in consequence of the change. The deceased monarch was 32 years old, and had reigned eleven years; he was the seventh emperor of the present Manchu dynasty.

The British, French and Russian Legations are at Peking, but the general admission and visits of foreigners to the capital has been discouraged by the Ministers there. Many merchants have settled at Tientsin, which is likely to become a commercial centre for the region connected with the Pei-ho river. The Allied troops still remain there in garrison.



The details of evacuating the city of Canton are now being carried out; and by the end of this month, the city and all its public offices and property in the hands of the Allies will be returned to the Chinese authorities, except two places for their Consulates. The former site of the Governor general's office has been taken by the French for the Roman Catholics in lieu of land and buildings claimed as belonging to them, and confiscated in the reign of Yungching about 1735, when their missionaries were abolished. The number of troops to be withdrawn is stated to be about 4000 of all arms, the French have sent nearly their whole force to Saigon and Annam.

The people of Canton have become so well used to the presence and protection of the English in their city, that a large portion of them rather regret their departure, and a few feel doubtful about the maintenance of peace. The officials and gentry have expressed their dissatisfaction at the occupation of the provincial capital by foreigners; and some of the former have kept aloof since its capture in December, 1857, holding their courts at Fuhhohan, a large town 12 miles to the westward. The country within a few tens of miles, and indeed the whole province of Kwangtung is now more quiet and free from organized banditti, than at any times during the last ten years.

The indemnity to be paid to the Allies by the Chinese Government is being regularly collected at the ports; and there is every reason to believe that the whole sum of about twenty millions of dollars will be rapidly paid up.

This collection has not interfered in the least with the regular payments on account of the American indemnity.

I have the honor to be, / Sir, / Your obedient Servant

S. Wells Williams

To Hon<sup>ble</sup> William H. Seward / Secretary of State / Washington

SWW の上掲引用書簡で報告のあるように、英国・フランス・ロシアの公使館は北京にすでに設置されており、米国は、この点で数歩遅れていた。北京の英国公使館生活を実際に若き Ernest Satow は、自筆日記のなかで活写している<sup>34</sup>。

なにしろ南京条約の批准が未だ片付いていない。また、万一の危機に晒されかねない米国人の保護のために、中国沿岸に配置されている軍艦や軍隊が、規模のうえで、これら欧米諸国と比較にならないほど少なかった。この点でも遅れていた。奴隷解放運動に続く南北戦争という国内社会の危機を迎えている時期に、海外に派遣する軍艦や兵士、それに政府予算に、大きな限界があ

った。

同じ遅れは対日政策にも現われている。日本開国を果たしたペリー提督、それに随伴した首席通訳の SWW、また下田に留まり孤軍奮闘したハリス、西洋諸国の中で先陣を切って進めた彼らの友好条約や通商条約の早期締結にもかかわらず、なのである。単に国内情勢の影響だけでなく、米国政府の採用していた平和外交、中立主義、他国の主権や領土の不侵略等の政策も、このような遅れと見える展開になって現出した、として見るべきであろう。

エール大学スターリング図書館の所蔵する SWW 書簡コレクションは、主として家族に宛てた私信であるから、内容的にも書き方にも、公式文書と異なる性格のものである。着任早々の頃から北京で始まる公使館生活を伝える書簡の時期、1861 年末から 1863 年までの同 SWW 書簡を見るかぎり、バーリンゲームについての話題はそれほど頻繁でない。しかし随所に短い言及を散見できるので、そこからバーリンゲームの私的な横顔が、垣間見れるであろう。一通の SWW 書簡全体の中で、どれほど短い言及であるか、以下に一例を挙げ、私的な関心の範囲のなかに入っていない実態を最初に確認しておきたいと思う。

Macao, Nov. 15, 1861

My dear brother Fredric,

Your kind and particular letter of June last, giving all the items of the division of the estate, and the various shares, did not reach me as soon as it ought, but it kept on the way & i was glad to get it. But the notices you give of Wally recalls the last time I saw him standing near you, and the pang of blank disappointment at not having you both go down to the Narrows with us, which you could all have done just as well as half a dozen others id, a pang now deepened in the remembrance, that it was the last sight I s hall ever have of the dear boy, my first born and the hope of my heart.

But let us speak first of your letter. I do not quite agree with you in the appointment of 2/5 of the commissions to your share, & only 1/5 to Edward & me, reducing your share really below others. I suppose the division otherwise as completely fair as I am entirely satisfied with it, taking all things together, the people we had to deal with, and the nature of the property in question. It is gratifying to have had you to help Robert in the last part, both for him & the absent ones, Edward & i, but chiefly for Robert. Poor fellow, he is now out of his bramble-bush, and glad enough too. Mr. Huntington has given, so far as I can see, such sort of property as would be as valuable to us as the general run of his

own diversified possessions is to himself; & this is all we could look for. As to the under current & feeling connected with the division, to part of which you refer, I need not advert; all that has gone, and need not be brought to the surface again. I have written Mr. G. About the reasons for giving my power of atty. to Robert, and further than that I shall say nothing. I have told Robert to pay all the income from my share to the Am. Board till the end of next year; it will not be very much.

I don't exactly know whether the picture you speak of as having been given to Kirk in my behalf, & the \$6.50 paid to Bill, & the \$1.30 to Wally, were all defrayed by money you got of Talcott, or otherwise. I intended the \$13 to be paid to Mr. Smith to furnish it, & the balance handed to him, but in the departure it went awry a little. No great matter, if you did not pay it yourself. You have my best, & brotherly thanks for looking after Wally, and taking him to Utica. How pleasantly we passed the last week at Talcott's, how fresh the memory of those fleet moments, like the pure light on the photograph paper, their traces are clear and cheery, and unsullied as earthly, earth born pictures can be. The record of my whole visit to faderland in memory's tablets is as happy and bright as any such record can be. Your presence comes up often, associated with Jersey City friends, Sunday schools, and other places & people, all in good keeping. I was highly favored in meeting you with so many others, so that the tableaux are varied out of a monochrome, and I have you in various lights.

I have hung the pictures of you and Talcott near each other in my parlor, with Robert over against you. Wally's is suspended by itself. Dear boy, how can I give you up! But God has sent for him, and I feel that his claim is paramount, and am willing at times, but at others would like to have it different, and have him back again. The sufferings of his last hours were great and prevented those around from ascertaining his feelings in view of death, or learning anything of his preparedness for the great change so suddenly coming on him. Sarah feels the bereavement as almost her first great grief: like the mourning of a mother for her first born, is a Bible metaphor for great sorrow. She is very low spirited and sorrowing; all looks gloomy and lonesome to her now, for she had clustered many fond hopes & plans around Wally, whose uprooting has been like severing limbs from the body.

We have been kindly greeted on our return, and have found most of our missionary friends in this region in good health, and their work prospering as much as we could expect. The great diversity of sentiments among them on some points demands no little forbearance in order to keep the bonds of Christian unity strong, for which the Baptists withhold themselves from communion, and declare that neither others nor their converts keep the law of Christ, there are others who will not even

worship with their brethren because they wont sing Ronse's version of the Psalms of David, much more not commune with them. Some of the London Mission men baptise as a means of grace, & thus multiply the professed adherents of the cause, without knowing their conversion. But amid all these things the truth is preached I hope, & that has God for its support & reward.

Mr. Burlingame is here, and finds himself in a maze of perplexities and a multitude of counsellors. He is a cheerful, hopeful sort of man, & endeavors to be kind to all in particular. I think I shall not stay in the Legation very much longer, as the traveling about so much is becoming irksome, & I am not able to "wear the weather" as the Chinese say, like as I used to. The rest of a quiet home hereabouts looks inviting. Dwight is very well, growing rather insolent & averse to exercise, but attends to his duties carefully, & will probably get a higher post as it opens. He is well reported of among people, & seems to be regarded as fitted for his duties, and bids fair to get property. He has left all his affairs connected with the estate of mother in Gardner's hands so entirely, that he cares but little respecting the details of the decision. His feelings towards Robert seem still to be hardish, but he restrains himself. We will not cease to pray for better.

Good bye for this, & peace / Affly Yours SWW

[P.S.] We've just heard of Bridgman's death.

米国の故郷に暮らす弟ロバートに宛てた書簡であり、マカオ 11 月 15 日の日付が付いている。先の SWW による公式書簡 10 月 11 日からは一カ月ほど経過していることになる。10 月 24 日に香港に到着したバーリングイムは、香港 11 月 14 日の公式書簡において、広東を訪問してきたと伝え、広東訪問に同行した SWW が、バーリングイムをマカオまで案内したと思われる。

上掲引用書簡に言及されている「陽気で、楽観的で、誰にも親切である」、という初対面の印象は、好印象に見えるけれど、SWW は直ぐに続けて、これから先そう長いこと公使館勤務をしたくない、という心境を漏らしている。バーリングイムと SWW 二人の相談は、マカオから上海にまず移動し、そこに公使館を仮設する話になったようであるが、SWW としては愛着の深いマカオを離れたくない気持ちと同時に、それほど新任者の上司に魅力（前出の回想文で言われるほどの“magnetism”）を感じなかった、という気持ちさえ窺えるようである。

バーリングイムの香港 11 月 30 日公式書簡には、中国政府内部に対立する保守派と進歩派の動向を伝え、同時に公使館設置のために上海に出発する、と以下のように伝えている。米国国内で人望家として通っていたバーリングイムも、中国の言語・文化・状況をこれから学ばなければな

らない立場にあり、なにかにつけて SWW に頼らざるをえない。SWW にとっては大きな荷物を背負ったことを意識している、と行間から観測できそうに思われる。このことは、後々に展開するバーリングゲームの政策や言動の陰に、常に SWW の助言が存在している、つまりはバーリングゲームの「合作政策」の真の立案者は、影の SWW であるのかも知れない、という仮説に私どもを導きそうである。

Hong Kong, Nov. 30th, 1861

Sir

I have the honor to inform you that in obedience to your instructions under date of Washington Aug. 28<sup>th</sup> 1861, I have taken the oath of allegiance required by the same, and caused it to be taken by S. Wells Williams, Interpreter and acting Secretary of Legation and by our Consuls, W<sup>m</sup>. H. Carpenter and Willie P. Mangum Jr. and by vice Consul Gideon Nye Jr. I have also administered the oath to Commander Schenck of the Saginaw, who will cause it to be taken by those under his command, those oaths I forward for deposit in the archives of the department.

Since my last despatch there has been a Court revolution at Peking in which the old Council of Regency was overturned and all its members put to death or banished or degraded.

The Dowager Empress has been declared Regent and Prince Kung (brother of the late Emperor) is her chief Minister.

The party which has been overthrown, and rigidly conservative and was opposed to the relations established, by Treaty, with foreigners. And it is chiefly charged against them, in the decrees of their successful rivals, that having change of Hienping, they deceived him with reference to foreign questions last year when they pursued that "vicious policy" which brought foreign armies against their capital and led to the destruction of the palace of Yuen-ming-Yuen, and that they kept him ignorant of the peace which had been made and troubled him and caused him to remain in the cold palace of Ye Ho until he sickened and died. It is also charged that they usurped power and falsely declared that they were invested, by the late Emperor with the administration of affairs during the ministry of his heir.

It is thought foreign interests will be conserved by this action of Prince Kung and his party in as much as they are strongly in favor of maintaining and extending peaceful relations with foreigners. I send you a paper containing all the facts in relation to the event at Peking.

I have learned through Chief Justice Adams of this place that in Oct. last he conversed with an American by the name of Robert living with the insurgents at Nanking who informed him that as the English Government had prevented Taiping from obtaining gunboats in England the rebels had sent to America and ordered hour, which were making and would be sent out next year. As this would be a gross violation of our Treaty obligations I call your attention to the facts.

I have visited Macao and procured the archive of the Legation and am now on my way to Shanghai where I intend to set up the Legation.

Yours truly / Burlingame.

Secretary of State

上掲引用書簡が重要な意義を持つ点は、北京政府内部の政変を詳しく伝えることにある。断るまでもなく、中国語の読めないバーリングゲームがもっぱら頼りにしたのは、SWW 以外にいない。進歩派の恭親王との親交や協調関係が、北京において開始されるのに先立ち、SWW の見解に沿った形で情勢分析をして、親王に対する好意を最初から抱いている点に注目しておかなければならない。

着任を伝えた先の書簡に対する英国特命全権公使 Bruce の返書には、北京 12 月 3 日の日付があり、英国と米国の外交代表の間に発展してきた協調関係に触れて、次のように述べているが、対中国の共同歩調も「合作政策」の一つの柱になった。

(Copy)

Peking, December 3<sup>rd</sup>, 1861

Sir,

I have the honor to acknowledge receipt of your Excellency's letter, informing me of your appointment as Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary of the United States in China, and of your assumption of the duties of that office.

The cordial and friendly relations that existed between His Excellency, Mr. Ward and myself, during a very eventful period in China, have always been a source of much gratification to myself, and I can assure your Excellency that you will find in me a sincere disposition to continue those relations on the same footing with yourself. The interests of our two governments in this country are absolutely identical, and united action cannot fail to promote them.

I may state that the beneficial results of direct intercourse with the highest officers of this Empire are becoming more and more manifest in proportion as that intercourse is extended.

I avail myself of this occasion to express to your Excellency the assurance of my highest consideration.

(Signed) Frederick W.A. Bruce

SWW の持ち帰った大統領署名入りの条約を北京で批准する儀式は、河川・運河に張りつめた氷の解ける春先まで実現できない。それに北京に赴任するとしても、公使館の建物はなく、私邸にしても用意されていない。SWW もバーリングゲームも家族持ちでありながら、とりあえずの上海行きでさえ、単身赴任にならざるえない状況にあった。上海到着を知らせるバーリングゲーム自身の公式書簡には、上海 12 月 24 日の日付があり、12 月 21 日に上海に到着したと知らせているが、この時点で SWW はまだマカオに留まったままで、同行していない。

先の書簡に言及された Breck は、寧波の米国領事であるが、太平天国の反乱軍の手に落ちたと知らせてきた。SWW の上海行きは、新婚の弟フレデリックと新婦キャロラインに宛てた以下の書簡に見るように、春先になってからになった。

Macao, March 13, 1862

My dear brother Frederick, and now I can say, dear Sister, whom not having seen I feel like loving; much joy to be your both.

Three sisters have gone to the plains of Shinar, and I have seen neither, but that is not likely to prevent my earnest desires for their happiness of those whom I now write to, and their usefulness in the good work of the Lord to which they are called. However, I think if Frederic has been less in the way of people he knew, and a little more in bye-places, he would perhaps have come across one whom the Lord has kept waiting for him in U.S. as well as in Con'ple, and then belike I should have seen her, if I did not the other two. Sarah and I are much pleased to learn that you have come, at last, where in your view she was waiting; and gone on with her till you found Talcott & Cornelia waiting too for you both, and in good health ready to join on the journey to Mardin. God be praised for his great goodness to both of us in meeting our children well, while we were separated from them---a Mizpeh had been set up between us, as Jacob & Laban desired, and we have new reasons for thanking Him and greater stimuli to do more in His service.

I have written you twice since I arrived in October, once by way of Berrüt, and again inclosed to Dr. Dwight at Con'ple, which you are not likely to receive very soon, if his confères there sent it after him to U.S. I don't remember much what was in the first; besides the incidents of the voyage & arrival & ack<sup>t</sup>. of yours from Utica about the division of the estate with Robert, and dividing my sorrow with you on Wally's death, for I don't keep a copy of my letters; nor in the other, besides referring to Bridgman's departure. I have been in the south of China since landing, and mostly at Macao, where I have found enough to busy myself. I expect soon to go north, yet I may not stay there very long. I have an idea that our new Minister Mr. Burlingame will not care to spend much time in Peking just yet, as he expects his family out before the end of the year.

April 10. I am on the point of starting for Shanghai, where I shall write you. Send your letter care of Bull Purdon & Co. at Hongkong. There is not much news of movement hereabouts, except the attack of the Taiping rebels on the settlement at Shanghai, but they were driven off, & I suspect will be forced to disperse. This old empire is effete, poor, & scared. She must be Christianized before much more can come out of her.

マカオに妻子を残した SWW の上海行きは、4 月 10 日にマカオを出発する計画であるとしながらも、香港、寧波経由となったために、実際の上海到着は、4 月末か 5 月初めになった。パーリングゲームの 12 月 24 日到着から数ヶ月後になる。この間の全権公使滞在先は、公使館のないままに、当時の慣例となっていた有力な米国系商人の商館、具体的には Russell 商館であったと思われる。米国の上海領事館にしても借家であり、そこよりも、豪華な施設の整った商館の食客になる方が好ましく思われた時代である。

SWW の方も昔からの宣教師仲間の宣教師館で食客になっている。上海到着後も再び待機生活となり、この頃の私信に度々言及されている Bridgman 未亡人のもとで世話になっている<sup>35</sup>。こうして米国特命全権公使と書記官・通訳の居住する場所が、上海市内でバラバラに散っているという事態も、今日的な視点から見れば多少奇異な感じを抱かせる。長期の上海待機は、全権公使一行を運ぶための米国軍艦ワイオミング号がなかなか到着しないためだった。それにマカオ 3 月 13 日付け前掲 SWW 書簡に述べられているように、妻子に先立って中国入りしたパーリングゲームは、近く年内にも到着する予定の彼女たちを香港まで迎えに行く計画なのであり、たとえ北京訪問を近々果たしたところで、直ぐに上海へ戻らなければならず、北京行きをそんなに急ぐ心境にならなかったようである。



SWW の次の私信では、マカオに残してきた娘のソフィーに宛てた父親らしい文面のなかで、この間の事情を以下のように伝えている。5月19日に続いて5月26日上海の日付が入っていることに注意したい。

Shanghai, May 19, 1862

My dear little Sophy,

Who wrote me such a pleasant note, and told me about the lilies and the flowers in the garden, and how she learned her verses, and all the other things, doesn't know how happy she made me. It was the first real letter she ever wrote me, and made me think of the days when Wally printed just such notes.

I sent you a note from Fuhchau, and after it had gone I went again on board the steamer to go on to Shanghai; we had pleasant weather all the way to Ningpo, a town about half way up, and there I saw Mrs. Mangum, who wished to hear about you. The robbers were at Ningpo, and people were afraid of them, and had run away out of the city. Not many days after, the English and French took the city from the robbers, and the people could then return to their houses in it. They found nothing in them, for the robbers had stolen everything, sometimes even taking the windows and doors to burn. In the steamer we had some women and children who were going away. They had been driven out of the city, and the fathers of some of them killed. It made me feel sad to see so many people driven away from their homes, and hear of their being killed and drowned. We ought to be thankful to God who takes care of us, and gives us homes.

Yesterday I saw Sylvia Purdon, and her father to-day. She was going off to a ship this morning to spend the day. There are several large ships close by the house where I live, and many small ones; the river is full of big and little vessels, and you can hear the whistles of the steamers.

In this house are twenty Chinese girls whom Mrs. Bridgman teaches every day. They can sing hymns in Chinese, and she teaches them to sew. One of them waits on the table, for a week, and the next week another one takes her turn; so they learn to do many things.

I am to start for Peking to-morrow, and shall try to send you a note from there. It is a long way from Macao, but the letters can go by the steamers, and you can write me another nice note. I hope you will teach Freddie plenty of verses, and help dear mamma ever so much. The blessed Jesus loves you when you try to mind her and make everybody happy, as you do.

Dear Papa

May 26<sup>th</sup>

This letter did not go when it was ready, because I did not hear of the steamer in time, and so I can tell you of the funeral procession I attended this morning. About a week ago the English and French were helping the Chinese to destroy the wicked men who do so much mischief among the villages, burning houses, and killing the poor people, and had almost driven them away. The French admiral was in front and was killed by a shot hitting him in the breast. This morning he was buried and every body invited to attend the funeral. There were many officers and soldiers, many priests and boys, dressed each in their own uniforms, some with gold lace, swords and guns, some with square caps, long gowns and wax candles, and Chinese officers with feathers, buttons and big silk boots. In all there were two hundred people. They all went to the church where the priests read prayers, the band played music, the boys threw incense out of the silver censer, and the organ led the chanting. After all these services were finished, the procession went to the grave, and the coffin was put in; then the soldiers fired their guns over the grave as they marched by it, each one by himself; before this they had fired all at once. So there was end and all went home. The crowd around was very quiet.

Yesterday I heard Mrs. Bridgman's Chinese girls sing hymns, and some of them who love Jesus had come to the communion. Mamma will tell you what the communion is. They can sing Happy Island and a few other tunes.

子供に宛てて書かれた手紙であるので、太平天国反乱軍の悪行を「盗賊」とか「悪者」と呼んでいるけれど、1862年の上海とその周辺には、いつ攻め込んで来るかも知れない緊迫した状態に置かれていた<sup>36</sup>。民間の自営団が組織され、軍事訓練を実施したり、交替で見張り番に立っていてもいる<sup>37</sup>。こうして軍艦を待つ間にも、思いがけない楽しい出来事もあったらしい。上海6月11日付けの妻宛て書簡の中で、こう伝えているからである。“The Japanese merchantman from Nagasaki has attracted some attention in port. I went on board with Mr. Seward, and found an old acquaintance, tho' I had forgotten him. She has 50 souls on board, & no foreigner.”それから数日後に弟のロバートに宛てた手紙では、到着の遅れている軍艦だけでなく、北京までの遠路に展開する反乱軍の危険を述べて、どうにも動きが取れない状態にあることを以下のように伝えている。

Shanghai, June 14, 1862

Dear Brother Robert,

Your letter of March 18 came to hand at Macao in 60 days, but I only recd. it last week. I am much gratified to learn from it that mother's legacy has enabled me to aid the mission cause as much as \$200, without any difficulty on my part. There is not much self denial in giving money coming in such a way, indeed; for I neither knew when it came nor when it went; tho' I am happy in going it such an end to serve. I am much obliged to you for your carefulness in looking after the Utica property, and as long as you are there it will be well enough. My only desire to bring it into a manageable shape in one body from a regard to contingencies; you have the power in your hands, and must act as you see circumstances require. I have no desire to dispose of Grove's mortgage, so far as the actual investments goes; it is only in reference to the future management of such a piece of property in my circumstances, that I spoke in my letter of last winter. On the whole, I coincide with you that it would be better to let this remain for the present, even if you dispose of the Bank stock when it is at a fair price. The Olyphant's allow 7% on running a/c, and the bank stock don't bring that I suppose. I have no idea what is a fair price for the mortgage.

I cannot get your teapoys &c. here nearly as cheaply as in Canton, & have asked Sarah to see after them. The ships have pretty well sailed with season's teas, and there may not be an opp'y soon. The teapoys will be \$5 a set in the shops, hadkfs about \$10, & the other things as much more, say \$30 to get the articles ready for shipping, and a few dollars duty & charges. I think Sarah will see to them soon.

Dwight is to go to Swatau to reside, and will be more comfortably situated there than at Whampoa in that he will be on land & not on water, otherwise there is not much to choose between the places. He seems to give satisfaction t so far as I hear, and the duties of the place are not onerous.

I received a letter from Mr. Gardner, stating his grievance in a plain way about the letters, and I think I removed the complaint, tho' perhaps not all the feeling. Perhaps the fire will burn out if there's o fuel. I have already requested him to see the preparation & erection of a tombstone for Wally, in order to show him that I've no hard thoughts, if there's no room for two similar stones, then arrange both epitaphs on one stone, or let me know how you think best before doing anything, as there's no hurry. As to what Mr. G may say about me, don't let it up long. Pray for him & forget it. Perhaps I gave him cause for some of it, unwittingly, and there has not been time to explain. It must be that offences come; let it be our care not to tumble on them.

I came up here a month & more ago, expecting to go to Peking soon, but have been hindered hitherto. The country is everywhere open now, but it is not over safe to travel extemporarily. This vicinity is a scene of rapine, bloodshed & suffering beyond description. What we now see & hear from commentaries of the liveliest sort on the descriptions given by the prophets of the carnage of ancient armies. These insurgents are not so easily caught, and the heat is too great for foreign troops to get out and try to inclose them. They may soon beleague this settlement & stop the provisioning, when the distress among the natives who have fled to it for protection would compel some sharp remedy to save the foreigners. Shanghai is now a foreign town to all interests, & the Frenchseem to be trying to appropriate most of it to themselves. Their objects in China are rather suspicious, & thro' the priests they will soon wield a powerful opposition to Protestants.

When the U.S.S. "Whyoming" arrives, I shall start for Peking, and may remain there till early winter. I hope to get back to Macao by new year's, and before indeed, for I am tired of this separation from wife and children, and shall endeavor to arrange in future so as to avoid it. I am disappointed in the detention in respect to being kept down here when the weather is most favorable for going to the capital, and thus prevents my return south. The whole of China is in a sad state: misgovernment, oppression and want are so combining to weaken it more & more, and apparently throw it into foreigner's hands, when its condition is likely to be worse for a while, tho' perhaps ultimately better. God's plans for the diffusion of the gospel involve many overturnings, and this country has been settled o its lees so long that the sediment is a dreadful of ignorance, idolatry & impurity.

Please give my dutiful love to Aunt Seward, who claims our highest respect; I am glad to hear she is well, & that Alex & his wife are the better for their visit. I trust that you & your dear family will be kept together for mutual happiness and improvement. It is a difficult thing to train children, & we need constant help from the Spirit. Love to Abby and the children.

Yours affectionately / S. Wells Williams

P.S. I am glad to get newspaper slips, but I think those of local sort which may have some relation to the town or people of Utica more likely to be new. We get papers now from California sooner than New York, and every detail of the civil war is soon known. God mercifully grant that it may soon end & peace come.

上海 6 月 4 日の日付から、すでに一カ月余り、待機状態に陥っていることがわかる。生麦事件の英国人被害、上海のリチャードソンとクラーク、それに香港のボラデイル夫人の三人までが、

この頃までに上海を発って横浜へ向かっている。

北京入りを急がなければ、運河の氷が心配される時期になってきている。バーリングゲームには、信任状の手交、できれば皇帝の謁見、大統領署名の済んだ天津条約の正式批准、英仏露の外交代表に表敬訪問して共同歩調の政策を確認すること、外務省幹部とりわけ外務大臣・首相格の恭親王との協議開始等、盛りだくさんの日程が詰まっている。SWW にとっての最大関心事は、上司の住居を確保することにある。香港に向かっているというバーリングゲームの妻子が、初めての中国生活を快適にスタートさせられるように、適切な屋敷を借りるか購入することが、SWW に与えられた第一の任務であった。マカオで待つ自分の妻子を迎えるための自宅も、あわせて準備に取り掛からなければならない。住み慣れたマカオや広東と勝手が違うばかりか、外交関係者と宣教師だけに北京居住が認められており、頼りにしたい商人たちの入京は、許されておらず北京手前の天津止まりであったから、結局、北京での居住地探しは、もっぱら一人 SWW の中国経験と手腕にかかっていたといえる。

上に引用したバーリングゲーム公式書簡うち、最後のものには香港 1861 年 11 月 30 日の日付けがある。また、上海到着の 1861 年 12 月 24 日にも言及した。1862 年に入ってから書かれたバーリングゲーム公式書簡のうち、1 月 9 日書簡で英国艦隊司令官のホープ準提督による反乱軍鎮圧の動きを伝え、1 月 23 日付けで自身の寧波訪問、2 月 7 日書簡で Breck 領事からの反乱軍動向に関する報告に言及し、3 月 7 日書簡において中国政府の希望する軍艦と武器の購入が、H.G. Wards に委託されたことを伝えているし、更に 3 月 22 日書簡で中国政府の支払っている賠償金の分配について触れているだけである。北京入りの計画に言及されるのは、ようやく春先の 4 月 5 日書簡とそれに続く 5 月 3 日と 5 月 18 日の書簡においてである。出発予定日として伝えた 5 月 19 日には、再び書簡を送り、先に言及した賠償金の余剰金に関連して、米国人と中国人学生に文学と言語を教えるための高等教育機関を設置する資金にしたい意向を述べている。実際の出発は更に遅れを見せ、7 月 1 日書簡において、米国軍艦 Contest 号で出発すると伝えたあと、次の 7 月 24 日書簡でようやく 7 月 20 日の北京着任を知らせることができた。着任直後の動きには、恭親王との面談や親交等、バーリングゲーム伝記研究において重要な事項を含んでいるが、後続の別稿で詳論する予定である。

本稿の結びに SWW の動向について述べておかなければならない。上に引用してきた SWW 私信のうち、最後のものには、上海 1862 年 6 月 14 日の日付がある。私信の主な宛先は、妻子か弟ロバート、弟のフレデリックである。既に上で引用したマカオ 1861 年 11 月 15 日付け弟フレデリック宛て書簡に始まり、家族に伝えたい私的な内容の多い中に、時折、バーリングゲームに関す

る言及が見られる。バーリングゲームの名前もしくは米国公使、という形での短い言及がその大部分である。1861年11月15日とマカオ1862年3月13日付け弟フレデリック宛て私信に続いては、天津1862年7月9日付け妻宛て書簡のなかで、上海滞在中に知り合いになった仏国全権公使夫人との縁で、北京到着後は、仏国公使館に一時的に泊めてもらう、というバーリングゲームの意向が伝えられている。次の妻宛て私信には、北京1862年8月7日の日付がついている。両者がようやく7月末までに北京へ到着できたわけである。SWWにとっては二度目の北京訪問となったが、最初の仕事は、言うまでもなく米国公使館の設置である。どの国の公使館も借地であり、そこに新築するか、古い屋敷を改装するか、どちらかの選択に迫られる。米国はこの点でも他の条約国よりも遅れをとっている。米国政府は借地借家の方針をとり、堂々たる建造物を建てたがらなかったようである。本稿冒頭に紹介した北京市内に建築の進む巨大な米国大使館とは、あまりにも対照的であり、隔世の感が深い。妻宛てのこの1862年8月7日付け私信では、公使館公邸で使用するバーリングゲーム家の生活用品を確保する手配をマカオの妻に依頼している。本稿最後の転写と引用は、これに続く1862年10月13日付け妻宛て私信であるが、北京生活の仮寓生活を報告していて、とりわけ公使館改装工事のために奔走するSWWの姿が如実に描き出されており、貴重な歴史資料の一つであると思われる。

Peking, Oct. 13, 1862

My dear Wife

The autumn is beginning to appear in every lineament of nature, the changing verdure, the falling leaves, the changable weather, the chilling morning air, the dried crispy grass, the ripening fruit, all show how the time speeds there all on their course. Mr. Burlingame is now on his way from Tientsin I suppose, and will soon be here with his wife, child, & nurse, to take possession of his house. Then I shall be away as soon as I can, and hoping to reach you before the autumn at the south has passed into all who know its quality, and the last three months have on the whole borne out its reputation. I had hoped to be gone by the 15<sup>th</sup> but now there is no chance of that day; Mr. B. may be here tomorrow; I have not learned when he left Tientsin, for it is, in time, about 500 miles off, as it takes ten days to get an answer, unless by special courier.

I wrote you a short note last week, returning a previous note, which had found its way back, after having gone as far as Shanghai, to Tientsin, and also sent a duplicate of the list of articles desired by Mr. Burlingame. The difficulties connected with correspondence between Canton & Peking are much

greater than I expected, and there must be some let in the port office somewhere, that I don't know. The non-receipt of the articles sent for to you & Mr. Hitchcock will very seriously interfere with Mr. B. household arrangements, & if they don't come soon, I hardly know how they can reach here before next May. If we could have foreseen [*sic*] the position here, then all provision could have been made for the contingency, before leaving Shanghai. Mr B.'s house gives satisfaction to those who have lived here, as likely to be a comfortable dwelling; there are four houses opening on a court<sup>38</sup>, two larger than the others: three rooms in a long narrow building behind the largest & separated about 12 ft from it, serves as his bedroom & that of his child's nurse; four or five other rooms at its side, at right angles with the bedrooms, affords lodgings for servants, a kitchen &c., while on the third side are stables, & a garden on the fourth, not large or elegant, but better than nothing. Thus the courtyard is in the center, with its four houses defining its size, and the appendages environ it. Every house is one story; three or four rooms have board floors, glass windows have taken the place of paper ones, fire places of brick stoves, and a general foreign aspect of the original dirt and decay when it passed into our hands about six weeks ago. I could get along very comfortably in such a dwelling, with the climate of the last three months, but what defects would appear after a year's experience, more time is required. The drawbacks on living in Peking are the distance from the outer world of friends, those who speak one's language, with whom intercourse is carried on,---a chief inconvenience too if one cannot talk Chinese. The difficulty for a lady getting about the city & town, unless on horseback, is not small: her dress prevents all walking the streets, absolutely; and a chair is troublesome amidst carts, donkeys, wheelbarrows and crowds. A lady could get exercise on top of the city wall outside of her own house. Many things must come from Shanghai or Tientsin, [such] as shoes, bonnets, hats, and many articles of food, as condiments, wines, besides crockery ware in our style. The dirt which fills the streets and penetrates the houses to a considerable extent, especially during the dry winters, forms a real obstruction to exercise, and unless can be taken, spoils things on which it settles. The advantages of a bracing, clear, and healthy climate, with plenty of room outside the city<sup>39</sup> for riding, overbalance much of these discommodities. The variety of meats, fruits, & vegetables is greater and cheaper than elsewhere in China, and on the whole superior. The freedom of intercourse among the people, is also a boon to one who can talk with them, and the variety of dialects, nations, education, habits and religions to be met with, furnishes inexhaustible resources to a student and a missionary. The foreign society will doubtless increase rather than diminish, and half a dozen ladies living within the circuit of a mile could visit each other often enough to make it cordial.

So I've told you about the matter of a residence in Peking as it strikes me after three months trial. It is not so pleasant a town as Macao, but its climate is better; its residences are not so convenient, but its provisions are cheaper. In every place in this world & situation in life, it is a composition of things, the pros & cons are different, they are set over against each other.

I've made a small collection of odds & ends here, most of them useless, ornamental and Chinese, and therefore I suppose eminently suitable for sending to American friends as mementoes of my visit to Peking, and acknowledgement of their unwearied kindness to us & our children when among them. It seems to me at times that I could send them all & each just such a lot as I have made. I shall have considerable freight to pay on the two boxes, most of one of which contains Chinese books, not many of course, or the [embrous] things would not go into one or two boxes. There are only four works, one of them a copy of the gazetteer lost in the Intrepid.

I have been induced thro' the strong representations of Blodget to buy a mission house at Tientsin: it is a house which the English occupied, & will, he says, serve the mission very well, & if I purchase it, can be improved by degrees without fear of the school, family, family or congregation being turned out because a higher rent can be obtained. I have paid 3000 dollars or so for it, without having seen it, because there could be no delay till I reached Tientsin if it was to be secured. I hope it will prove to be a help to the mission, and long be occupied by faithful men, for my only strong inducement was this. No rental has been agreed on; this can soon be settled. It is rather odd that the first house I ever owned should be one I had never seen in a town where I shall probably never live; no place in this world can be too far off to do good in, if God shows the desirableness.

I hope this, which is probably my last from Peking, will reach you in as good health as it leaves me. I shall never again leave you so long, if my present notions are accomplished, both for your sake & the dear children. But try with God's grace to be faithful to them. I think you fail here, amidst the cares of company & householder wants. Be ever trying to tell your own fervor to Him who has loved us with an everlasting love. He may soon call us to separate for ever in this world. My dearest wife, & darling Sophy & Fred, God bless & preserve you!

Aff[!]ly Yours / Wells



## 注

- <sup>1</sup> Archibald R. Colquhoun: *CHINA IN TRANSFORMATION* (London & New York: Harper & Brothers, 1898), p.220.
- <sup>2</sup> Ibid., pp.221-2. “The genesis of the Burlingame mission is somewhat obscure, its precise object scarcely less so; but its putative parents and actual sponsors are believed to have depreciated its consequences as having gone beyond what was hoped or intended when it was dispatched.”
- <sup>3</sup> John K. Fairbank, Edwin O. Reischauer, Albert M. Craig: *East Asia The Modern Transformation* (Boston: Houghton Mifflin Co., 1965), p. 336.
- <sup>4</sup> 『清代人物生卒年表』(北京: 人民文学出版社、2005) p.577.
- <sup>5</sup> The Middle Kingdom は、本稿の論考で基本資料に使う自筆書簡の筆者、S. Wells Williams の主著である。衛三畏著・陳俱訳『中国総論』(全二冊、上海古籍出版社、2004)。
- <sup>6</sup> Ibid, John K. Fairbank and others (1965), p.336.
- <sup>7</sup> 『聖書辞典』による預言者の定義。【超越的次元との媒介】『i 岩波キリスト教辞典』(岩波書店、2002年)、pp.1154-5.
- <sup>8</sup> 『共同走過的日子…美中交往兩百年 (A Journey Shared: The United States & China)』(美国公務院、2008)、pp.14-16.
- <sup>9</sup> 前掲書、p.19.
- <sup>10</sup> 周国強著「岩倉使節団とバーリングゲーム使節団…近代史の隠されたキーワード」(長崎新聞、2009年10月21日号文化欄)、p.18.
- <sup>11</sup> 北京発信 1870年4月1日妻子宛て私信のなかに、Gumpach が Robert Hart を裁判に訴えたことを次のように伝えている。“Gumpach has now sued Hart for fraud and treachery, pretending to be an agent for a University that had no existence.”
- <sup>12</sup> *Entering China's Service---Robert Hart's Journals, 1854-1863*, edited by Katherine F. Bruner, John K. Fairbank and Richard J. Smith (Cambridge, Massachusetts: Harvard Univ. Press, 1986).
- <sup>13</sup> Frederick Wells Williams: *Anson Burlingame and the First Chinese Mission to Foreign Powers* (New York: Charles Scribner's Sons, 1912)。p.58.
- <sup>14</sup> Gumpach、前出書、p.68.
- <sup>15</sup> Ibid., p.70.
- <sup>16</sup> 心理的にバランス感覚を失ってしまったのか、精神に異常をきたした Gumpach は狂死した。
- <sup>17</sup> Frederick Wells Williams: *Anson Burlingame and the First Chinese Mission to Foreign Powers* (New York: Charles Scribner's Sons, 1912).
- <sup>18</sup> この点を推測させる根拠は、以下のような注釈を FWW が記しているからである。“Emphasis was laid chiefly upon the unwarrantable freedom of Mr. Williams's translation and on the derogatory terms employed for foreign countries and for envoy.” Gumpach、前出書 pp.99-100 n1.
- <sup>19</sup> 顧鈞著『衛三畏与美国早期漢学』(北京: 外語教学及研究出版社、2009)。
- <sup>20</sup> 周国強、前出研究ノート。
- <sup>21</sup> 米国ではすでに次の三本の Ph. D.論文が発表されてきた。  
Telly H. Koo: *The Life of Anson Burlingame*, Harvard Univ., 1922.  
Samuel S. Kim: *Anson Burlingame*, Columbia Univ., 1971.  
Martin Robert King: *Anson Burlingame, S. Wells Williams and China*, Tulane Univ., 1972
- <sup>22</sup> 李宗敏著「浦安臣及晚清朝中国外交史」(聊城大学学报、2008年第2期) pp.326-7.  
李曉蓉著「略論浦安臣使団」(江蘇科技大学学报、Vol. 7 No.1, 2007) pp.69-73.
- <sup>23</sup> 劉華著「評 1868 年中美<浦安臣条約>」(華僑華人歴史研究、2003、No.1) pp.47-53.
- <sup>24</sup> 『千里山文学論集』(関西大学、2008年9月)、pp.161-180。本稿の発表時までに関西大学を離れている。
- <sup>25</sup> Frederick Wells Williams: *The Life and Letters of Samuel Wells Williams, Missionary, Diplomat, Sinologue* (New York: G.P. Putnam's Sons, 1889).  
中国語訳書。前出の顧鈞・江莉共訳『衛三畏敬生平及書信・一位美国来華傳教士的心路歷程』(桂林市: 廣西師範大学出版社、2004)。  
日本語訳書。筆者訳『清末幕末における S・ウェルズ・ウィリアムズ・生涯と書簡』(高城書房、2008)。
- <sup>26</sup> S. Wells Williams: *The Journal of the Perry Expedition to Japan 1853-1854*, edited by Frederick Wells Williams (Asiatic Society of Japan, 1910).  
S. Wells Williams: *The Journal of S. Wells Williams, L.L.D., Secretary and Interpreter of the American*

*Embassy to China during the Expedition to Tientsin and Peking in the Years 1858 and 1859*, edited by Frederick Wells Williams (n.d.).

- <sup>27</sup> かつて学生時代に、芝公園近くに設置されていたアメリカ文化センターを頻りに利用させていただいた筆者にとっては、北京に設置されている施設「美国文化教育交流中心 (American Center for Educational Exchange) (北京市朝陽区呼家楼京広中心 2801 房間)は、アメリカ文化センターの北京版と思いついでいるけれど、新刊中心の蔵書数は、かつての東京版と段違いに少ない。但し、この貴重なマイクロフィルムを全巻揃えて所蔵しているのには、実に驚きであった。公使、大使、外交代表部、それに各地に置かれた領事館の外交文書のみならず、マイクロフィルムで利用できるからである。私的な事柄になるが、北京滞在の目的の一つが、ACEE のマイクロフィルム利用にあることを記して感謝しておきたい。パーリングゲームに関する外交文書は、主に、次のマイクロフィルムに収められている。RG059/M92: Despatches from U.S. Ministers to China, 1843-1906. 美国駐華公使対華照会、1843-1906. 131 rolls: 35mm. このうち特に、以下の約 10 本のリールが、直接間接に、パーリングゲームに関連する。Roll 20, Feb. 13, 1860-July 26, 1861 から、Roll 30, Nov. 15, 1870-March 20, 1871.
- <sup>28</sup> Frederick Wells Williams 前掲書、pp.4-5.
- <sup>29</sup> Ibid, pp.8-9.
- <sup>30</sup> 10 年余り前から中国南部に端を発した長髪族の「太平天国の乱」は、このころまでに南京を制圧して反乱軍政府を設置するまでに大きくなっていったが、その他にも Pathan と呼ばれたイスラム教徒の反乱が、中国北西部の広範囲に勢力を拡大して、1881 年に至るまで制圧されなかったばかりか、Nien-fei と呼ばれた別の盗賊集団的な反乱軍も頭を持ち上げていたという。権力の衰退した中国政府を圧倒する勢いで、こうして中国地方各地に新しい民衆運動が展開して時代である。参照：ibid, p.15n.
- <sup>31</sup> Ibid, p.14.
- <sup>32</sup> Boone は、夫人を伴い、Batavia へ 1837 年初頭に到着、現地の中国人の間で伝道したあと、1840 年 11 月からは Macao に移り、W.C. Milne 宣教師と共同で、とりわけ、校長 B.R. Brown の不在期間中、1841 年 4 月 1 日から 9 月 10 日まで、現地のモリソン教育協会の学校運営にあたりもしている。1842 年 8 月 30 日、当時蔓延していた熱病のために、夫人は他界する。そのために米国に Boone は一時帰国をするが、滞在中に神学博士号を授与されたり、宣教師総督に任命されるなどして、再婚相手とともに中国に戻る。香港到着は 1845 年 4 月 24 日であった。1850 年代には、聖書の中国語翻訳に関連して、中国在住の宣教師間で盛んに論議された用語問題の委員会においても、他の宗派の代表である Medhurst や Bridgman と共に、上海の会議に参加している。1853 年に一時帰国。着任以来、中国で何度も健康を害している Boone は、再び 1857 年に帰国を余儀なくされるが、大量の宣教師団を伴い 1859 年の再来を実現させている。二番目の夫人も健康を害したために、上海からマカオに移って療養してみたりするが、1863 年夏には静養のために夫人が一足先に日本に渡っている。転地療養の甲斐もないところから、10 月には夫人を迎えに日本を訪れるものの、結局、同年 11 月 9 日に上海を立ち、ヨーロッパに向かうものの、1864 年 1 月 20 日に同地で夫人は他界する。その後の Boone は、英国、ドイツを廻って、上海に 6 月 13 日に戻ってくるものの、7 月 17 日に死亡し、上海墓地に埋葬された。参照： *Memorials of Protestant Missionaries to the Chinese (Shanghai: American Presbyterian Mission Press, 1867)*.
- <sup>33</sup> 参照： *Memorials of Protestant Missionaries to the Chinese (Shanghai: American Presbyterian Mission Press, 1867)*. Holmes, pp.251-2; Parker, p.253. この貴重な資料、それに前出のパーリングゲーム使節団や条約に関する最近の中国語論文は、すべて田力氏の提供による。田力氏は、浙江大学の大学院博士課程後期に在籍する新進気鋭の近代史研究者であるが、2009 年の夏休みを活用して、北京の国家図書館で米国人宣教師に関する調査研究を進めるために、北京に長期滞在中であった。彼の他にもモンゴル大学の大学院に学ぶ研究生が、やはり宣教師に関する調査研究のために、国家図書館に通っていた。たまたま調査先の図書館で知り合いになったわけであるが、特に筆者の関心と敬意を集めたのは、彼らが、第一次資料の英文自筆文書を解読タイプしている点にあった。出版物のみならず、こうした地道な調査研究を行う若手研究者が、育ってきている中国の研究態勢に、大きな驚きと期待を覚えた。
- <sup>34</sup> *Ernest Satow Diaries*, Vol.1, PRO/30/33/15/1, National Archive, Kew Gardens, London.
- <sup>35</sup> 未亡人は亡き夫を大変敬愛しており、夫の死去にともない一時的に米国へ帰国して、夫の伝記執筆のために私信等の収集を行って、伝記を書きあげたのちに、この書簡に見るように再び上海に戻ってミッション系の女学校の運営を再開した。SWW とは長年の親交があり、初期中国伝道に生涯を捧げた気丈夫な米国人女性である。
- <sup>36</sup> SWW は最初から太平天国の乱に期待を抱いていなかったが、この私信に言及されているような末期的な現象を否定できないものの、民衆運動として持っている歴史的評価を総合的に行う必要がある。参照、Lin-Le: *Ti-Ping Tien-Kwoh, The History of the Ti-Ping Revolution including a narrative of the Author's Personal Adventures* (Beijing: Foreign Language Press, 2003), in two volumes.
- <sup>37</sup> 英国系商人の一人、Charles Lenox Richardson (1833-1862)が、こうした反乱軍の迫る上海の不安定な商売に厭

---

気を抱き、一時帰国するつもりで立ち寄った横浜において、生麦事件の犠牲者となる経緯と時代状況について、かつて拙書で述べたことがある。拙書『「幕末」に殺された男』（新潮選書、1997）。参照：「第六章 若き日のアーネスト・サトウ」 pp.101-120 及び p.121.

<sup>38</sup> 北京市内で今でも多くみかける所謂「四合院」の作り方であり、北京の魯迅故居と同じである。

<sup>39</sup> 北京在住の各国公使は、北京西方の西山八大処に点在する寺院を夏場の避暑地に使った。1860年代の一つの慣習になったほどである。SWWの好んだ寺は、尼寺であり、三山庵といったが、家族とコックを連れて出かけたら、夏場の3カ月ほどを過ごしてくる。自ら Tremont Temple と呼んで親しんだ避暑地の生活については、後続（二）の別稿で扱う。

